

令和5年度 愛野こども園業務評価結果

総合評価 B

1 評価項目の達成及び取組状況

評価対象	結果	理 由
(1) 幼保連携型認定こども園の教育・保育に関して	A	<p>教育・保育目標 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」 重点目標 「からだづくり こころづくり なかまづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児との信頼関係を十分に築き、園児が安心して身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤したり、考えたりするようになる教育・保育の実践に努めることができた。 ・教育・保育をとおして育みたい資質・能力を共通にし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」等を指導計画に位置付け、実践する中で学期ごとに考察・反省を繰り返し、指導の充実を図ることができた。 ・今年度は、コロナウイルス感染症が5類に移行したが、園生活の中では手洗いうがいを繰り返し指導し、感染者が発生した場合は消毒を徹底し、健康な体づくりへの意識を高めることができた。 ・行事の開催や地域の人との交流等、コロナで今までできなかった活動を少しずつ増やしてきた。幼児期に大切にしたい人や自然との交流を前年度よりたくさん実施することができた。 ・幼児理解に基づいた指導計画の作成、保育実践、反省を基にした改善をPDCAサイクルで捉えて行うことで、子どもたちの心の豊かさ、たくましさの育ちを促すことができた。職員の努力の成果であり、保育者自身の質の向上につながった。 ・南の丘学園研修会に参加したり、市で推進しているレインボープロジェクトの説明を聞きいたりすることで、こども園から小学校へのスムーズな移行や幼小一貫教育への職員の関心が高まった。

<p>(2) 保育の実践力に関して (研修を含む)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に生活できるよう、個人差を踏まえながら一人ひとりに適した援助に心掛けることができ、自己肯定感をはぐくむ実践につながった。また、特別支援を要する幼児への支援の難しさはあるが、マンツーマンで向き合う中で、支援の方法がつかめ、保護者と連携をとりながら対応することができた。 ・幼児が自らの興味や関心に基づいて、自発的、主体的にかかわろうとする環境を計画的に用意したり、日頃から慣れ親しみ安心できる環境に心掛けたりして、生活全体を充実させることができた。 ・外部研修は、集合研修が増え情報交換をしたり、実技を学んだりし保育力を高める機会となり、職員の新たな学びにつながり、保育実践に活かす努力をするようになった。 ・園内研修では、保育部は「環境構成について」、教育部は「発達支援児への援助について」、各クラス公開保育をして職員間で子どもたちの発達にとって良い保育を学び合い職員の質の向上を図ってきている。
<p>(3) 教諭としての資質について (能力・良識・適性)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体性を大切に保育のあり方を考え合い、幼児の思いに寄り添った保育実践に努めることができ、職員間で園の教育方針を共通にして進めることができた。 ・研修、会議等では、進んで意見交換したり、傾聴したりして、新たな学びを保育に活かす努力をすることができた。 ・常に衛生面・清潔感を意識した身だしなみに心掛け、子どもたちの手本になれるような保育姿勢を築けた。また、言葉遣いに自ら気を付けることができ、子どもたちにとって正しい言葉の習得になるようにした。 ・提出物の期限を守って保育準備やお便りの作成、指導案等の提出ができた。 ・保育室の環境では、壁面の作成や制作物等、季節や発達を捉えてきていた。小動物の飼育や秋の自然物活動等、時期を捉えた保育環境への意識が高まっている。 ・室内の整理整頓は、中には苦手な教諭もいるが、避難経路の確保や棚の上に重い物を置かない工夫などできている。
<p>(4) 教諭同士のチーム力について</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育部・保育部共に他学年の職員との連携に努め、行事の遂行、日々の保育準備、環境等に協力体制で取り組むことができた。 ・役割や担当について、先輩の教諭から方法について聞いたり、自分が経験することで力をつけたりして、学びに活かすことができている。 ・伝達ミスを招かないよう、丁寧に伝え合い、活動等に支障が出ないように努めると同時に、守秘義務を互いに守っている。

<p>(5) 保護者との連携に関して</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児や保護者の個人情報厳守したうえで、面談の実施や連絡帳への記載をすることができている。 ・保護者面談では、傾聴を基本として思いに寄り添ったり、園での様子を伝えたりして、連携がより密にとれるようになった。 ・保護者からの相談内容や、担任から保護者への報告事項について、事前に主幹教諭・園長と内容を共有し、必要に応じて対応の方法を事前に考え、丁寧に対応するようにした。 ・保護者の考え方が多様化しているが、クレーム的な意見はなく、園への温かな理解・協力を得ることができている。 ・全体的には連携が取れているが、経験年数が少ない職員にとっては対応への不安が大きいようである。
<p>(6) 地域との連携に関して</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育等で出会った地域の方に進んで挨拶を交わしたり、地域の人のご厚意を受け、田植え・稲刈り体験を実施し、感謝の思いをもって取り組んだりすることができた。 ・職員一同、地域に根差した園であることの共通理解を図り、進んで地域の方にかかわったり、地域の自然環境を生かした園外保育に心掛け感謝の思いをもって体験を園児に楽しませたりして、心身の豊かな発達を促すことができている。教育部は、園外に出掛ける経験がたくさんできたが、保育部は少なかったので地域の良さを体験させていきたい。
<p>(7) 危機管理能力について</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の安全と安心を第一に保育室等の避難経路や災害発生時の対応を考え環境を整えている。 ・緊急事態が発生した場合に、咄嗟の判断が求められる。職員が連携のもと、臨機応変に対応できるよう努めていきたい。 ・ヒヤリハットを実施するようになり、教諭の安全面への意識が高まり、怪我の発生やかみつき等が減少した。 ・嘔吐処理の方法や簡単な怪我の対応の仕方をどの職員も身に着けることができ、他の職員と連携しながら対処できるようになってきている ・「れんらくアプリ」による登降園の確認をし、園児の未連絡者への対応を徹底し、園児の所在を明らかにしている。

2 総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の教育・保育に関すること、教諭としての資質、教諭同士のチーム力は、職員の意識が高く、対応力が身に付いていて、自己発揮できているものと評価できる。今後も、連携を大切に、より園児の成長を促すための取組に力を入れていく。 ・保護者との連携、地域との連携については、保護者の価値観の多様化による対応の難しさやコロナ禍により地域との連携が減少したことが要因と受け止める。しかし、保護者対応では、保護者に寄り添った連携に努めることができている。地域とのかかわりも園としては、園外に出掛け地域の良さを生かした教育・保育実践に努めてきた。 ・保育の実践力について、危機管理能力については、研修の時間の確保の工夫をし、さらに向上させていけるよう努力をしていきたい。

3 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の実践力について ・保護者との連携について ・地域との連携について ・危機管理能力について 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの主体性を大切にした環境構成や支援方法等クラス運営のあり方を、職員が主体的に考えていけるよう、さらに園内研修の充実に努めていく。 ・経験年数の少ない職員にとっては、保護者対応に不安を抱きやすいので、先輩職員と一緒に対応にあたり保護者の声に傾聴したり、伝え方を知らせたりしていくようにする。 ・地域の自然環境や人材を生かした保育を展開できるように、情報収集をしたり園から働きかけをしたりしていく。企業に「子育て講話」に出掛けたり、園外保育に出掛けたりして連携していく。 ・職員一人ひとりの危機管理能力を高めるため、いろいろな場や内容を想定しての訓練を予告なしで実施し、臨機応変に行動できる対応力をつけていく。

浜松学院大学附属愛野こども園 園長 田代直子

4 関係者評価委員の意見

<p>A 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1)「幼保連携認定こども園の保育・教育に関して」の袋井市で推進している南の丘学園研修会やレインボープロジェクトの研修への参加は、小学校へのスムーズな移行に繋がっていて良いと思う。また、小学校の先生がこども園やこどもたちの実態を知っているということは、親にとってとても安心できること。この点について、さらに保護者にアピールしていくとよいと思う。

- ・(5)「保護者との連携に関して」は、基本的な対応は適切に行われていることが伺える。その反面、業務評価結果から経験年数の少ない保育教諭にとっては対応への不安が大きいことが伺える。保護者から見れば経験年数にかかわらず子どもに係る先生たちは皆同じなので、経験年数の少ない保育教諭を適切に支援できる体制を整えていくことが必要であると考えます。
- ・アンケート結果の公表と共に、保護者の意見とコメントをすべての保護者と共有することは、園の方針や他の保護者の教育観や子ども感を学ぶ場にもなるので、良いことである。また、保護者の前向きな提案を取り入れてほしい。

B 委員

- ・愛野こども園のアンケート結果を見ると、保護者の意見からも好意的で評価が上がっていると感じる。また、アンケート回答率が98%と高く、このこと自体が保護者からの信頼の表れだと思う。(5)「保護者との連携に関して」や「地域との連携に関して」も限りなくAに近いBだと思う。
- ・「地域との連携に関して」は、地域に根差した保育活動が行われていることが伺える。今後も、この地域が、地域文化を伝承できるようになってほしいと思う。

C 委員

- ・(3)「教諭としての資質について」は、幼児の主体性を大切にした保育の在り方を考え保育実践を行い、職員が園の教育方針を共有できている点が評価できる。
- ・「地域の連携に関して」は、田植えや稲刈りなど地域に根差した保育活動を行っていることが伺える。今後さらに、コロナ禍で中止となっていた盆踊りの再開や地元バンドの演奏活動なども取り入れてほしい。

D 委員

- ・アンケート結果を見ると、保護者からの意見が好意的であり、園に対する保護者の信頼や満足度が高いことが伺える。アンケート結果の公表は、保護者に対する園の信頼に繋がっていき大変良いことだと思う。

令和5年度 浜松学院大学附属愛野こども園学校関係者評価委員会委員名簿

NO	氏名	住所	愛野こども園運営委員の要件	備考
1	田代直子	袋井市	愛野こども園園長	
2	坂田温志	浜松市	浜松学院大学短期大学部教授	
3	清水雄太	浜松市	浜松学院大学助教	
4	富松正浩	袋井市	愛野こども園保護者代表 (保護者会会長)	
5	川島優樹	袋井市	愛野こども園保護者代表 (保護者会副会長)	
6	山本淳司	袋井市	愛野地区コミュニティ代表	
7	吉崎成夫	袋井市	愛野地区コミュニティ代表	